

民間のコミュニティ拠点となる場を表す名称と定義に関する研究

A Study on the Terminology and Definitions of Private Community Hubs

○熊倉有希¹, 大川碧望², 佐藤慎也²

Yuki Kumakura¹, Aono Okawa², Shinya Satoh²

In recent years, public facilities have been increasingly expected to serve as community hubs, fostering interaction and integrating with their urban context. In parallel, privately operated community spaces—such as community cafés and informal civic centers—are more flexible and tailored to the local community.

This study explores the terminology and definitions of these private community spaces to clarify their roles and inform future research on community-based infrastructure. This study analyzes existing research on privately operated community spaces and finds that "community café" is the most commonly used term. These spaces are often food-oriented and aim to foster local interaction and belonging. While various names are used with unclear definitions, they all serve as community gathering places. Due to their flexible nature, these spaces resist a single unified definition.

1. 研究背景・目的

近年、美術館・図書館などの公共施設計画において、人々のコミュニティの生成や居場所となる公共空間に対する需要が高まっている。公共施設が建築物単体として機能するだけでなく、街との連続性を持ち、近隣の地域住民の交流拠点となることで、それぞれの施設が元来持つ機能以上の効果をもたらしていると考えられる。同時に、街の居場所として機能しているものに、民間が運営するコミュニティ拠点となる場がある。これらは、自治体が運営する公共施設に比べて、より柔軟に地域に寄り添った場であり、地域住民の生活を彩る様々な活動が行われている。しかし、これらを表す名称は、コミュニティカフェ、コミュニティ施設、私設公民館など複数存在し、それぞれが示す意味合いもわずかに異なる。

本研究では、民間が運営するコミュニティ拠点となる場の名称と定義を調査し、それぞれの役割を明確化することで、今後のコミュニティ拠点に関する研究に役立てることを目的とする。

2. 研究方法・対象

本研究では、日本建築学会アーカイブ検索を用いて、「コミュニティ」と検索して抽出された 3,341 件の中から、民間が運営するコミュニティ拠点・施設について述べている 105 件において、使用されている名称とその定義についての調査を行う。

3. 名称と定義

105 件の論考内で使用されている名称を表 1 にまと

める。複数回用いられていない名称はその他としてまとめている。

表 1 既往研究における名称と件数

名称	(件)	名称	(件)
コミュニティ施設	13	コミュニティスペース	2
コミュニティカフェ	11	コミュニティ農園	2
サロン	7	ランドリーカフェ	2
サードプレイス	5	団地キッチン	2
コモンスペース	5	地域共生のいえ	2
コミュニティセンター	5	福祉型複合コミュニティ	2
コミュニティハブ	4	まちづくりセンター	2
住み開き	4	まちの居場所	2
オープンガーデン	3	まちライブラリー	2
コミュニティ拠点	3	共空間	2
コミュニティ	2	その他	23

1) コミュニティ施設

「コミュニティ施設」は、コミュニティ拠点となる場を表す名称として、民間や自治体にかかわらず広く用いられているが、既往研究においては多くが自治体が運営する施設に対して用いられている。

民間主体のコミュニティ施設について述べられているものとして、鈴木亜未子らによる研究¹⁾がある。「民間団体が指定管理者となるコミュニティ施設」として、施設が自主コミュニティ活動団体のプラットフォームとして果たしている役割について述べられており、民間運営の施設をコミュニティ施設と定義している。

2) コミュニティカフェ

1: 日大理工・院(前)・建築, 2: 日大理工・教員・建築

「コミュニティカフェ」は、民間が運営するコミュニティ拠点となる場を表す名称として用いられている。

飯田詠子らによる研究²⁾では、現代のコミュニティ形成の場であるコミュニティカフェにおける利用者の意識や交流実態に着目した研究を行っている。ここでは、コミュニティカフェを「NPO 法人や個人が主体となった地域住民の居場所や交流の場」と定義しており、「コミュニティセンターよりも小規模であるが、運営や利用の自由度が高く、様々なニーズに対応しやすいことが特徴である」と述べられている。

柴田彩華らによる研究³⁾では、「コミュニティカフェとは地域社会の中『たまり場』、『居場所』になっている場所の総称である」としている。

野口菜々子らによる研究⁴⁾では、「地域交流を促すための活動を行っている場であるが、その活動は多岐にわたるため役割が明確でない」と述べられているように、コミュニティカフェという名称も広義的に用いられていることがわかる。

3) サロン

「サロン」は、主に高齢者が主体となるコミュニティ拠点に対して用いられる名称である。

中村久美による研究⁵⁾では、「活動主体が住民ボランティアであり、まさに住民による住民のための地域活動である」と述べられており、サロンを議論・情報交換が行われるコミュニティ拠点としている。

毛利洋子らによる研究⁶⁾では、空き店舗を利用したまちなかサロンの利用実態が述べられている。まちなかサロンは、コミュニティ施設の1つとして定義され、内部にはコミュニティスペースやミーティングスペースが設けられている。

4) その他の名称

長谷川翔大らによる研究⁷⁾では、サードプレイスの概念を、自宅、学校、職場以外の公共空間、会員や予約がなくて誰でも無料で利用できるなどを含めた6項目に再定義している。フリースペースとしてのコミュニティ拠点はサードプレイスに含まれるが、有料で飲食が提供されるコミュニティカフェはこれらに含まれないものとして扱われている。

井上岳らによる研究⁸⁾では、コモンスペースを「本来行政が公共サービスとして提供するプログラムを私営する建築空間」としている。

小野寺美紀らによる研究⁹⁾では、「周辺住人が集い能動的に活動を行う活発なサードプレイス」として、喫茶ランドリーが取り上げられている。

そのほかに、コモンスペース、まちの居場所、まち

ライブラリー、住み開き、ランドリーカフェ、コミュニティレストランなど、多くの名称が用いられている。

4. まとめ

民間が運営するコミュニティ拠点となる場に関する既往研究の分析を通して、コミュニティカフェという名称が最も一般的に用いられていることがわかった。民間が運営するコミュニティ拠点は、食を媒介とすることで地域交流を促し、地域住民の居場所となる施設を目指すものが多く、コミュニティカフェとして運営されているものが多い。その他には、サロン、サードプレイスなど、様々な名称が用いられており、それぞれの定義は曖昧であるが、「地域住民の居場所となる場」という点が共通している。民間が運営する場は、運営や利用の自由度が高く、活動の幅も多岐にわたるため、1つに定義することは難しい。

参考文献

- 1) 鈴木亜未子,松本邦彦,澤木昌典:住民の自主的なグループ活動に資するコミュニティ施設のプラットフォームとしての役割,日本建築学会近畿支部研究発表会,pp.341-344,2019
- 2) 飯田詠子,初見学:都市におけるコミュニティ形成の場に関する研究,日本建築学会大会学術講演梗概集,pp.331-332,2008.9
- 3) 柴田彩華,野澤英希:コミュニティカフェの運営実態及び子育て世代の利用者のニーズに関する研究,日本建築学会東海支部研究報告集, pp.357-360,No.59,2021.2
- 4) 野口菜々子,川島和彦:コミュニティカフェにおける地域交流の促進のための活動に関する研究, 2014 年度日本建築学会関東支部研究報告集 II,pp.405-409,2015.3
- 5) 中村久美:地域コミュニティとしてのふれあい・いきいきサロンの評価とそのあり方,日本建築学会学術講演梗概集, pp.25-26,2008.9
- 6) 毛利洋子,岡松道雄,田原迫茉莉:小規模コミュニティ施設の改修前後の利用実態比較と今後の活用法,日本建築学会学術講演梗概集, pp.951-952,2017.8
- 7) 長谷川翔大,広田直行:サードプレイスの概念からみる地域コミュニティ施設の空間構成に関する研究,日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.787-788,2021.9
- 8) 井上岳,原里絵香,櫻井花,アルマザン ホルヘ:地域コミュニティのためのコモンスペースにおける設計と運営に関する研究,日本建築学会計画系論文集, pp.2453-2463,2018
- 9) 小野寺美紀,加藤研:『セミ・パブリック』なまちの居場所を生み出す設えについての考察,日本建築学会大会学術講演梗概集,pp.701-702,2020.9